

漢字と植物の微妙な関係 ～牧野植物学へと至る道～

日比谷図書文化館では9月29日(木)に「漢字と植物の微妙な関係～牧野植物学へと至る道～」の講座を開催します。

「日本植物学の父」として知られる世界的植物学者・牧野富太郎は、漢和辞典にも大きな影響を与えました。

サクラは「桜」と書くべきではないし、カエデを「楓」と書いてはいけない。なぜなら、「桜」や「楓」は、中国語ではサクラやカエデを表す漢字ではないからだ。——とさかんに牧野は主張しました。

植物を表す漢字の中には、日本語と中国語で異なる植物を指すものがあることに、江戸時代の学者たちもすでに気づきはじめていました。では、そういう違いはなぜ生じ、どのようなきっかけで意識されるようになったのでしょうか？本講座では、「漢字と植物をめぐる奮闘の歴史」をたどります。



講師 円満字 二郎 (フリーライター)

1967年、兵庫県西宮市生まれ。大学卒業後、出版社で国語教科書や漢和辞典などの担当編集者として働く。2008年、退職してフリーに。著書に、『漢字ときあかし辞典』『部首ときあかし辞典』『漢字の使い分けときあかし辞典』『四字熟語ときあかし辞典』(以上、研究社)、『漢和辞典的に申しますと。』(文春文庫)、『漢字の植物苑 花の名前をたずねてみれば』(岩波書店)、『難読漢字の奥義書』(草思社)、『漢字が日本語になるまで』(ちくまQブックス)などがある。

開催概要

- 日時：9月29日(木) 14:00～15:30 (13:30 開場)
- 会場：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール (大ホール)
- 定員：200名 (事前申込順、定員に達し次第締切)
- 参加費：1000円
- 申込方法：ホームページのお申込フォーム、電話(03-3502-3340)いずれかにて、①講座名、②お名前(ふりがな)、③電話番号(「お申込みフォーム」からの場合は④メールアドレス)をご連絡ください。

〈 お問い合わせ先 〉

千代田区立日比谷図書文化館 広報担当：並木 namiki-yuri@shopro.co.jp、岡本 okamoto-yoriko@shopro.co.jp

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園 1-4 TEL:03-3502-3340 / FAX:03-3502-3341

ホームページ：<https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/>